
薬指への誓い

紺野 蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

薬指への誓い

【Nコード】

N2214N

【作者名】

紺野 蒼

【あらすじ】

結婚式前日。

迷いの中にいる自分に会いに来てくれた、かつての恋人。

いつも待ち合わせた河川敷。電車の高架下。

明日は結婚式だから。最後に、貴方との思い出のこの場所に来た。

会えるなんて、思ってたなかった……。

「——言うべきじゃないって——渡すべきじゃないって、分かっているんだけど。どうしても、伝えなかった……」

さらさらと流れる水の音と、貴方の声だけしかない世界は、夢なのだと、私にこの時を思わせた。

「お前と、生きたかった。お前を愛してる。誰よりも、何よりも。」

正直、お前を連れていってしまいたいよ」

物騒な言葉とは裏腹な、幸福そうな、優しい笑顔に、堪えていた涙がこぼれた。

「ごめんな。」

泣くの分かった。でも、どうしても、伝えなかったんだ」

苦しそうに笑顔をやがめて、掌に載せた小箱を、私に差し出す。

「愛してる。お前と別れた日に用意してたんだ。お前のだから、受けとって？」

ビロードの小箱。

彼に最後に会った日に、遅刻してきた彼に腹を立てて背中を向けた時、息を切らさせてた彼が握りしめていた物の正体を、始めて知った。

涙が止まらなくて。鼻水まで出てきて。苦しくて両手で顔を覆う。

「……ねえ、幸せになってよ」

優しい両腕で抱きしめて、染み入る様な声で囁く。

「お前が幸せになってくれれば、俺も幸せになれるから」

夢見るような、本当に幸福そうな声。

堪え切れずに泣き声を上げて、あたしは彼にしがみ付く。

「ごめん……ごめんねえ……あの時——」

「ごめん」

あたしの言葉を遮り、きつくきつく抱きしめてくる腕は、どこまでも優しく……愛されているのだと、感じさせた。

「言葉にしくちや、分からなかったよな。」

お前はいつでも傍にいて。俺、甘えてたんだ。ごめんなあ……

……

優しいばかりだった彼の声に、後悔が滲む。

「ちがつ……あたしがっ、わがま……つま言ってっ——」

「ねえ」

悔やむばかりのあたしの言葉を遮り、あの頃と同じ、優しい笑顔を見せる。

「幸せになつてよ。俺、いつでも、お前の……お前と、お前が愛する存在を、見守り続けるからさ」

あの頃と変わらない——六年も前の姿と笑顔のまま、小箱から取り出した指輪を、私の右手の薬指に嵌める。

「反対側は、旦那になる男に譲る。だから——」

そつと、温もりの無い唇が、私のそれに触れる。

「俺の分も——それ以上に、幸せになつてよ」

背中を向けた時と同じ姿のまま——永遠に彼を失った時の姿のまま、幸福そうな笑みを浮かべる。

「お前が幸せなら、俺も、幸せになれるからさ」

どこまでも優しい笑顔で、どこまでも優しい腕でわたしを抱きしめて……。

指輪だけ遺して、貴方は消えた。

結婚式前日。

どうしても貴方を忘れられなくて……。

別れたその日の貴方の事故死。

罪悪感。後悔。愛情。

迷いの中にいるままだった私に、貴方は会いにきてくれた。

あの頃と変わらず、ただ、優しい愛をもって。

幸福になろう。

貴方を幸せにするためにも。幸福になろう。

夫と貴方。二人の男に愛されて、幸福になれない筈など無いから。
両手の薬指に誓おう。

一緒に、幸福になろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2214n/>

薬指への誓い

2010年10月10日12時28分発行